

# 第1章 流域の自然条件

## 1-1 狩野川の歴史

狩野川中流部に広がる<sup>たがた</sup>田方平野は、静岡県東部にあり、伊豆半島のほぼ中央部を流れる狩野川により形成された沖積平野である。ここは、氷河期も終わり海面が現在よりも数m高くなった約 6,000 年前の縄文時代頃には沼津市から<sup>ぬまづ</sup>黄瀬川下流、さらに現在の伊豆長岡町付近までは入江となっており、古狩野湾を形成していた。

やがて海面が低下し始めると、古狩野湾に注いでいた狩野川は大量の土砂を古狩野湾に堆積させ、次第に古狩野湾を埋め立て、現在の田方平野を形成していった。その後、約 1,000 年前の狩野川は、自然堤防の状況から、<sup>おおひと</sup>大仁町・<sup>いらやま</sup>韮山町のあたりでは現在よりも東側を流れていたことが確認できる。また、伊豆長岡町では、網目状に旧河道が分布し、洪水のたびに流路が変わったことを示している。この様子は周辺の地名にも残されており、中州がいくつもできて島のようになり、「<sup>わだじま</sup>和田島」や「<sup>ひるがこじま</sup>蛭ヶ小島」(<sup>みなもと</sup>源頼朝が平治の乱(1159年)後、流刑された場所)などと呼ばれていた。

狩野川の流路は、その後次第に西側に移り、鎌倉時代と伝えられる<sup>もりやま</sup>守山開削により守山の西に移されて、現在の流路とほぼ同じになった。

狩野川の名前の由来には諸説があるが、日本書紀(4世紀頃)によれば、伊豆の国で船を造りその名を「<sup>か</sup>枯野」と称したとあり、それが<sup>か</sup>軽野(カルヌ)からカヌに変わったという説が最も一般的である。

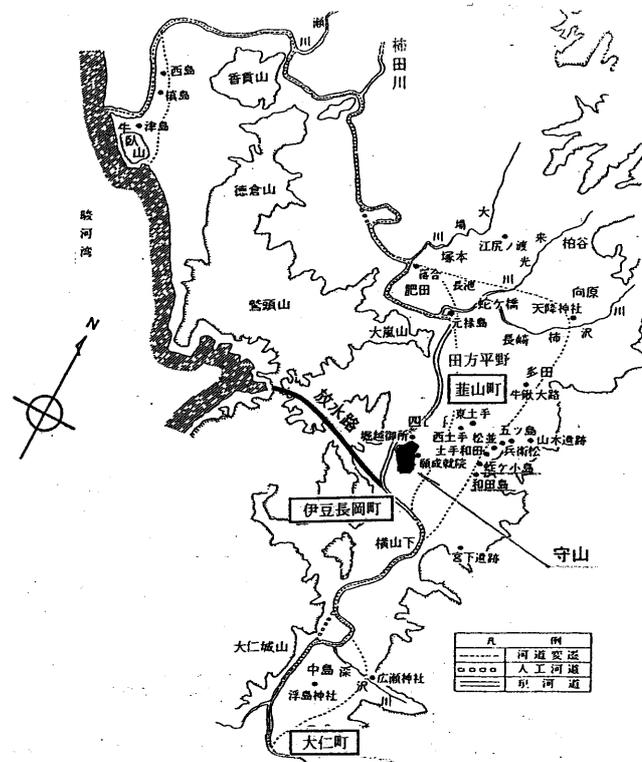


図 1.1 狩野川河道の変遷図

流域面積一覧表

| 河川名 | 流域面積 (km <sup>2</sup> ) | 流路延長 (km) | 山地及び平地の比率 |        |
|-----|-------------------------|-----------|-----------|--------|
|     |                         |           | 山地 (%)    | 平地 (%) |
| 狩野川 | 852.0                   | 46.0      | 88        | 12     |
| 黄瀬川 | 270.1                   | 30.0      | 94        | 6      |
| 柿田川 | 1.1                     | 1.1       | 0         | 100    |
| 大場川 | 89.6                    | 20.7      | 87        | 13     |
| 来光川 | 75.7                    | 14.4      | 83        | 17     |
| 大見川 | 120.7                   | 18.6      | 91        | 9      |
| その他 | 294.8                   | -         | 85        | 15     |

(出典：河川現況調査 平成2年度)

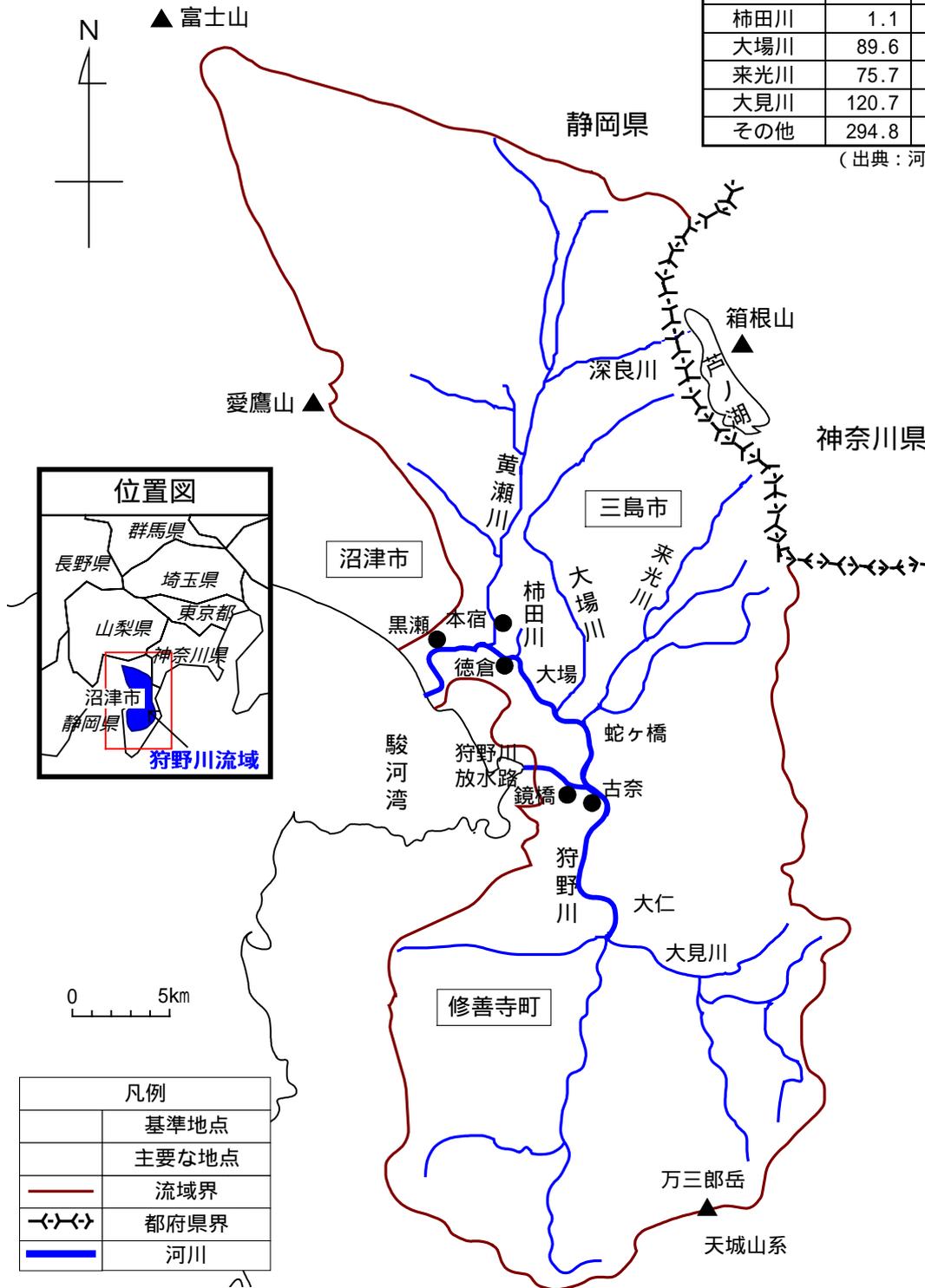


図 1.2 狩野川流域図

## 1-2 地形

狩野川流域は、富士山、箱根山、愛鷹山、天城山等の火山からなる山地がおよそ9割を占めており、修善寺町付近から河谷が開け、中流部には田方平野が広がっている。

田方平野は、標高が10m前後の盆地状の低地であるとともに、田方平野の末端には、黄瀬川からの三島扇状地が押し迫り、狩野川の流路が狭いため、洪水被害を受けやすい地形となっている。

下流部は三島扇状地の先端を縫うように流れ、扇状地の先端部が三島溶岩流の先端部にも当たることから湧水に恵まれており、東洋一といわれる柿田川湧水等の湧水群が点在しているほか、河口付近には狭い三角州が見られる。

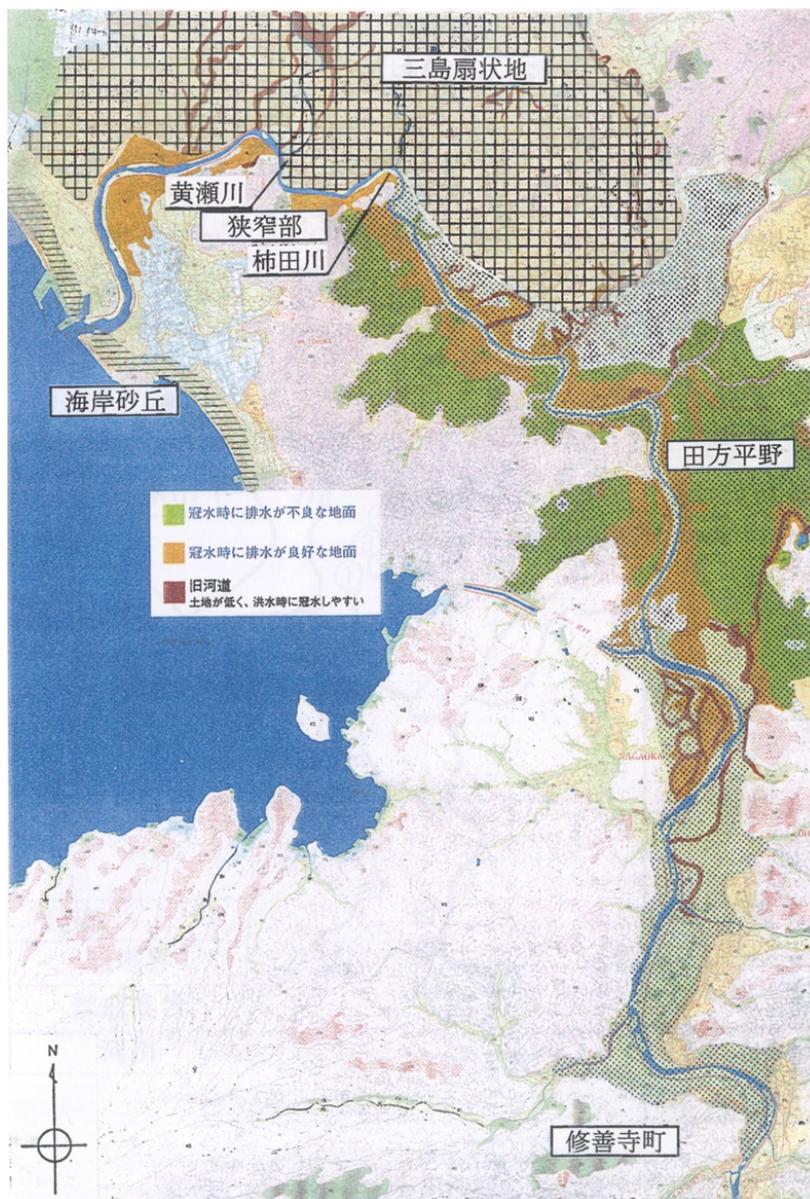


図 1.3 狩野川流域地形分類

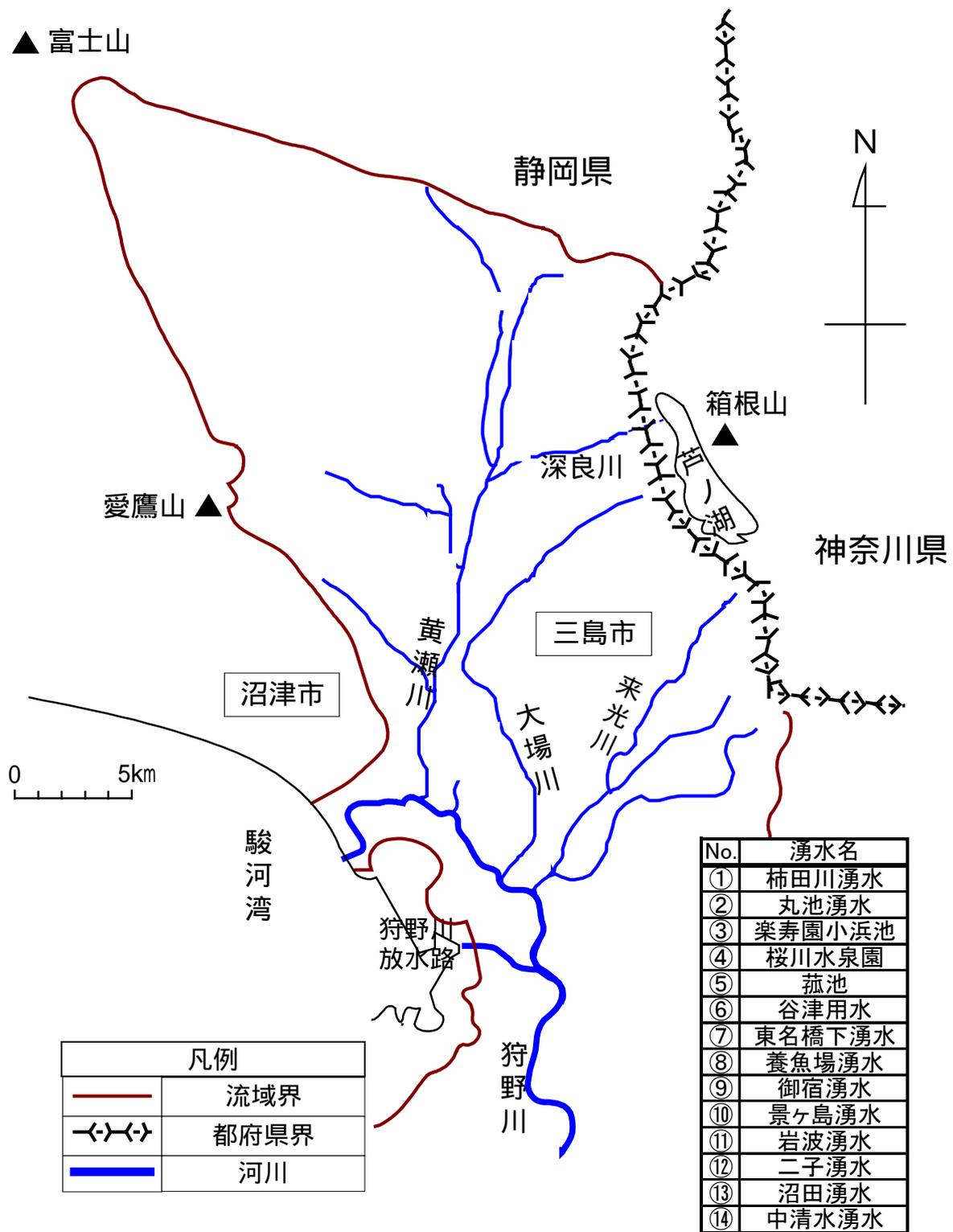


図 1.4 黄瀬川・大場川流域の主な湧水

(出典:「静岡県富士山周辺の湧泉について」

昭和 57 年 3 月)

1-3 地質

狩野川流域は火山地帯であり、第四紀に噴出した箱根山・愛鷹山・富士山・天城山・達磨山、それに新第三紀に形成された火山性地層からなる静浦山地などに囲まれ、その地質はほとんどが火山岩及び火山噴出物からなる。基底をなしているのは新第三紀に海底火山として噴出した安山岩、石英粗面岩及びこれらの集塊岩、凝炭岩である。

このように流域の大半が脆弱な火山噴出物で形成されているため、大雨などで崩壊しやすい地質構造となっており、昭和33年9月の狩野川台風時には上流の天城地方を中心に約1,200箇所もの斜面崩壊が生じている。

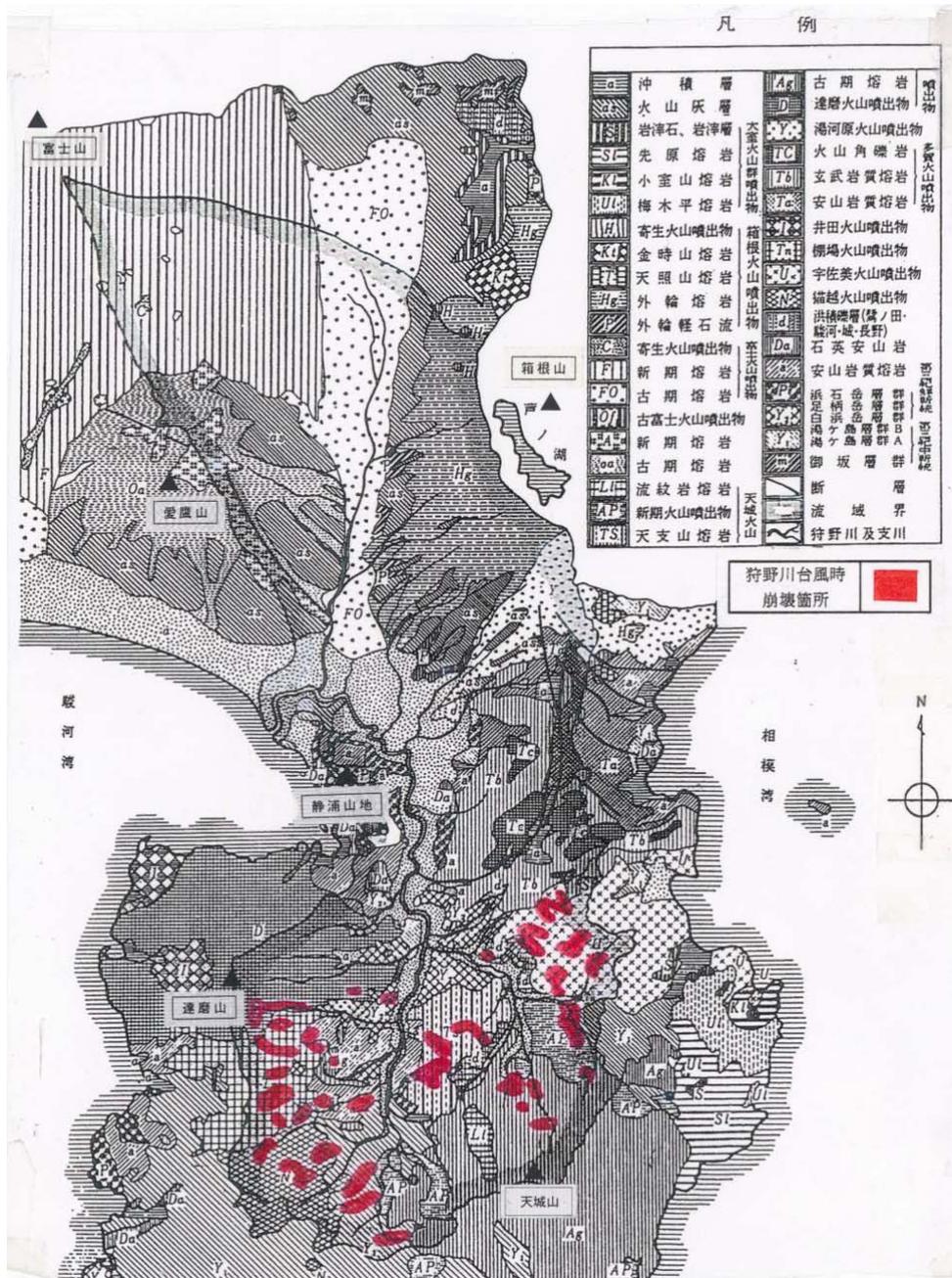


図 1.5 狩野川流域の地質図

#### 1-4 気候

狩野川流域の気候は、流域のほぼ中央に位置する三島市において、年平均気温が約15程度であり、温暖な気候となっている。

年間降水量（昭和44年～平成10年）は、本川上流域の天城山系や支川黄瀬川上流域の富士山麓部では3,000mmを越える多雨地帯で、中下流の平野部では2,000mm前後となっている。

上流の天城山系や富士山麓部では、降雨は梅雨期及び台風期に集中する傾向にある。また、狩野川流域は南北に長く、その両端に天城山系、富士山麓部が位置することから、降雨の時空間分布が大きく異なっている。



図 1.6 年平均降水量の分布図 (S44～H10)(単位: mm)

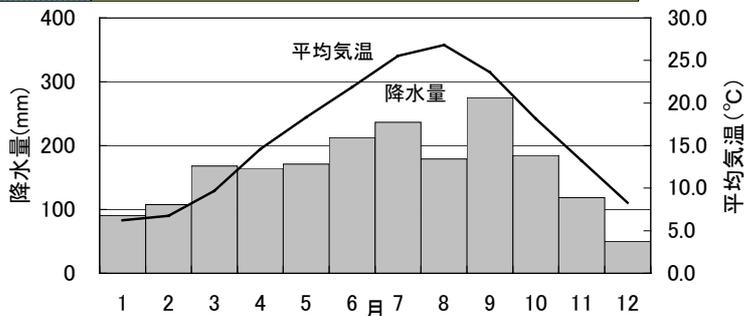


図 1.7 三島の月平均降水量と月平均気温 (H1～H10)